

# JA自己改革

## JA自己改革（農協改革）の取組状況について

JA自己改革（農協改革）とは、高齢化や過疎化の進行等により農業生産基盤への影響が懸念される中で、農家組合員の「農業所得向上」と「地域活性化」に対するJAこばやしの取り組みのことで、JA宮崎県大会決議事項の「所得アップGO!GO!テン+（プラス）」運動と「食と農・助け合い」を核とした「仲間づくり」運動を、組合員・役職員が一体となって取り組みを進めております。

### JAこばやしが取り組む自己改革

- I 協同組合として組合員の皆さまと徹底した話し合い
- II 農業者の所得向上に向け販売事業の強化
- III 農業者の所得向上を目的に生産資材のコスト低減対策
- IV 地域活性化対策

## I. 協同組合として組合員の皆さまと徹底した話し合いにより事業を展開

協同組合として「助け合い」「相互扶助」を理念に、組合員の皆さまと徹底した話し合いのもと各種の事業を展開しております。

具体的には以下のことを取り組みました。

会議・研修会等	実施目的・内容等
生産部会講習会	農業所得向上のための生産技術講習会等
出向く活動	総合営農相談員による担い手支援巡回等
対話集会（青年部・女性部）	農業振興、地域活性化、JA運営等の意見交換
営農班座談会	延べ101会場 1,652人参加

## II. 農業者の所得向上に向け販売事業の強化も含め

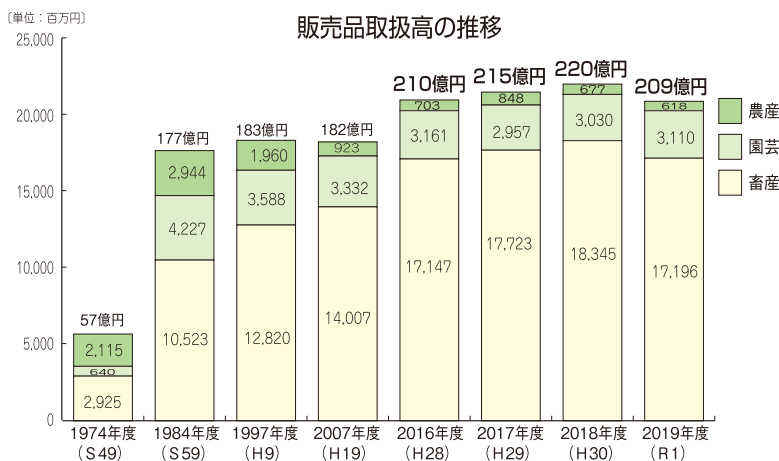
### 「所得アップGO!GO!テン+（プラス）」運動の展開



「所得アップGO!GO!テン+（プラス）」運動として、各生産部会ごと「収量アップ」と「品質アップ」につながる目標を設定し、農業所得向上・販売強化を進めています。

具体的には、以下の5つの取り組みにより、販売強化を図っています。

- ① 宮崎牛新定義による販売体制の強化
- ② マーケットインに基づく生産・販売方式の構築
- ③ 営業力強化を図り買取販売や契約的取引拡大による生産者所得向上
- ④ 百笑村を拠点にした直販機能の充実
- ⑤ 営農指導員の資質向上等による指導体制の強化



和牛繁殖農家研修会



「めろめろメロン」と解禁スタートダッシュPR

●畜産部門 「所得アップGO!GO!テン+(プラス)」運動 部会目標・実績

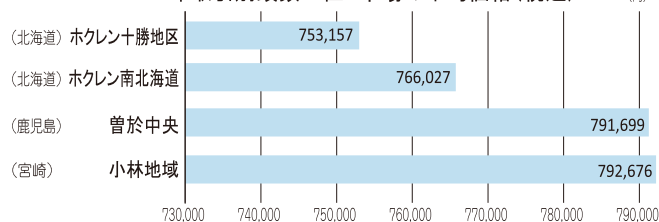
畜種	項目	2018年度実績	2019年度計画	2019年度実績	取組実績
和牛繁殖	1戸当総頭数	14.3	14.1	15.5	• 各種補助事業への取り組みで生産性向上機器の導入を実施
	母牛年齢(年)	7.8	7.5	5.9	
	分娩間隔(日)	413.9	410.0	403.0	
肥育牛	枝肉重量(kg)	495.6	♂500・♀450	♂507・♀461.7	• 巡回指導の強化と超音波スキャンでの肉質診断の実施
	上物率(%)	91.7	♂92%・♀83%	♂94.2%・♀92.5%	
	事故率(%)	0.2	0.2	0.2	
酪農	1頭当乳量(kg)	8,176.0	8,200.0	8,179.0	• 乳質改善巡回指導の強化
	乳脂率(%)	3.9	4.0	3.9	
	体細胞数(万)	30.0	20.0	25.0	

2019年子牛市場全国ランキング4位

都道府県名	家畜市場名	取引頭数	前年度順位	順位	前年度との増減
北海道	ホクレン十勝地区	14,979	1位	1位	367
北海道	ホクレン南北海道	13,481	3位	2位	823
鹿児島	曾於中央	13,087	2位	3位	△401
宮崎	小林地域	12,194	4位	4位	△425

ALIC(独立行政法人農畜産業振興機構)の公表値より  
集計対象牛:体重100kg以上340kg以下、日齢100日以上399日以下

2019年取引別頭数上位4市場の平均価格(税込) (円)



\* 和牛繁殖については、西諸畜連と一体となった購買者誘致により市場の活性化を図った。

\* 肥育牛については、販売強化対策として、枝肉の全頭相対販売の取り組みおよび超音波スキャンの活用等で管内肥育成績向上に努めた。

●園芸部門 「所得アップGO!GO!テン+(プラス)」運動 部会目標・実績

品目	項目	2018年度実績	2019年度計画	2019年度実績	取り組み実績
促成きゅうり	反収(kg)	16,279.0	15,000.0	17,217.0	• 土壌診断に基づく土づくりと適正管理 • 炭酸ガス施用と環境制御の取り組み • 農薬の適正使用および記帳、提出の徹底
	A品率(%)	89.0	90.0	84.6	
マンゴー	反収(kg)	1,542.0	1,700.0	1,633.0	• 土壌診断に基づく土づくりと適正管理 • 農薬の適正使用および記帳、提出の徹底
	A品率(%)	29.2	33.0	31.1	
雨よけピーマン	反収(kg)	6,400.0	5,345.0	6,411.0	• 土壌診断に基づく土づくりと液肥活用 • 適期収穫と適期適正管理の徹底 • 農薬の適正使用および記帳、提出の徹底
	A品率(%)	90.0	85.5	87.1	
加工大根	反収(kg)	5,600.0	5,500.0	5,991.0	• 土壌診断に基づく土づくり • 土壌消毒と適期・適正管理の徹底 • 農薬の適正使用および記帳、提出の徹底
	A品率(%)	95.0	95.0	95.4	

【2019年度 取り組みテーマ】

	マネジメント活動方針
指導	1. 安全・安心・美味しい農産物づくりの為に土づくり対策 2. 生産管理システムによる数値化、データ収集と情報共有 3. 「所得アップGO!GO!テン+(プラス)」運動優良事例の横展開 4. 営農指導員の資質向上、効率的な指導体制の構築
販売	1. JAグループのネットワークを基盤とした販売力と生産者と一体となった販売取り組みの強化 2. 市況(相場)に左右されない取引の確立のための営業力強化(契約業務用野菜)



メロン・マンゴーフェア

### Ⅲ. 農業者の所得向上を目的に購買事業(生産資材)等のコスト低減対策展開

農業生産性向上に向けた仕組みづくりとして、生産資材部門では良質生産資材の大量仕入れによる低コスト化や年間を通じた特別フェアの開催、農機燃料部門では農作業省力化機器の普及・機械化一貫体系の構築、JAファームでは自給粗飼料供給体制の構築などにより農家組合員の所得向上に努めております。

#### 【各種特別フェアの取り組み】

種 類	内 容	開催時期	取扱実績
飼 料	乾 牧 草	4・9・1月	655ト
	一 般 ふ す ま	3・9月	5,500袋
肥 料	B B ゴ ー ゴ マ ル	7・1月	26,752袋
	B B 新 追 肥 1 号		6,183袋
	消 石 灰		1,609袋
土 壌 消毒剤	ネ マ ト リ ン	5・9月	1,082袋
	テ ロ ン		953缶
	ラ グ ビ ー		622袋
除草剤	ラウンドアップ 20%	3・4月	25本
	タッチダウン 5%	5・6月	71本
	タッチダウン 20%		21本

#### 【低コスト資材普及の取り組み】

種 類	内 容	実 績
飼料用 種 子	原袋供給による コスト低減	70銘柄 4,713袋
	低コスト飼料作用等 B B 肥料の取り扱い	43銘柄 107,800袋
肥 料	農産用B B肥料の 取り扱い	10銘柄 1,663袋
	ケイカル・ヨーリン のフレコン散布推進	2銘柄 1,601袋
	ジェネリック農薬 の普及拡大	普及率(数量換算) 6.80%
農 薬	大型規格農薬の普及 拡大(除草剤)	普及率(数量換算) 57.60%

- ☆ S Sでは、オイル・農耕用タイヤ・バッテリー等の低価格供給に努めました。
- ☆ 経済連南九州3県合同仕入・型式設定による低コスト農機の普及に努めました。
- ☆ (有)協同商事JAファームでは、コーンロール事業の取り組み拡大を図りました。  
供給実績674個、作業受託実績 10,255個



BB 肥料特別フェア



乾牧草初売り

### Ⅳ. 地域活性化対策

「『食と農』『助け合い』を核とした仲間づくり」運動により、下記のとおり組合員・地域住民とのふれあい活動に取り組みました。

#### 【具体的取り組み】

仲間づくり項目	実施目的・内容等
お米学習教室	営農組合、青年部と連携した食育活動
ふれあいフェスタ(農業まつり)	「食と農の祭典」として地域住民参加・体験型
1支所1協同活動	JAと地域社会とのつながり力の強化を目的に全支所実施